

研究ノート

三重県のカワバタモロコ *Hemigrammocypris rasborella* の現状と保全

北村淳一^{1), 2)}・鈴木規慈^{2), 3)}

1) 〒519 2143 三重県津市一身田上津部田3060 三重県総合博物館

2) 〒514 8507 三重県津市栗真町屋町1577 三重大学大学院生物資源学研究科

3) 〒260 8682 千葉市中央区青葉町955 2 千葉県立中央博物館内 千葉県生物多様性センター

(2015年11月27日受付；2016年1月30日受理)

キーワード: 分布, 淡水魚, ため池, 絶滅危惧種, 三重県希少野生動植物種

Jyun ichi Kitamura* and Noriyasu Suzuki. 2016. *Hemigrammocypris rasborella*: current threats and conservation in Mie Prefecture, Japan. *Mie prefectural Museum Research Bulletin*, 2: 65-67.

*Corresponding author: Mie Prefectural Museum, 3060 Isshinden kouzubeta, Tsu, Mie 514 0061, Japan (kitamura@bio.sci.toho.u.ac.jp)

カワバタモロコ *Hemigrammocypris rasborella* Fowler, 1910はコイ科の純淡水魚類で、静岡県焼津市から九州西北部までの西日本に広く分布する日本固有種である (Watanabe et al., 2014)。主に河川中下流域の農業用水路やため池に生息し、里山の典型的な生き物の一つでもある。本種は愛知県の津島市などでは、今でも佃煮などに加工して食されており、かつては地元住民にとって重要なタンパク源であった (鈴木規慈, 個人観察)。大きいものでも全長6cmほどで、体はやや細長く扁平で、顔は口が斜め上を向いて開き、口ひげは無い。オスは6-7月の産卵期になると鮮やかな黄金色の婚姻色を呈することから、地域によっては、キンモロコ、キンジャコ、キンボテと呼ばれている。メスはオスよりも大型になる。産卵は水田などの浅い湿地で1尾のメスを数尾のオスが追尾して水草などに突っ込んで卵をばらまくスタイルで行われる。卵は球形で直径約1mm、およそ1日で孵化する。孵化後は水生小動物や付着藻類を食べて成長し、1年で成熟する (中村, 1969; 前畑, 2001)。水路では寿命が約1年であるが (Onikura et al., 2009)、ため池では3年以上生きる

ものも存在する (前畑, 2001)。本種の生息するため池では、ミナミメダカ *Oryzias latipes*、モツゴ *Pseudorasbora parva*、ウシモツゴ *Pseudorasbora pugnax*、タモロコ *Gnathopogon elongates elongates*、ヨシノボリ類 *Rhinogobius* sp. などがしばしば同所的に見られる (森, 1995; 大仲ほか, 2001; 田中ほか, 2001; 鹿野ほか, 2010)。

カワバタモロコが和名として記載されたのは1916年で、日本の魚類分類学の泰斗である田中茂穂博士が琵琶湖産の標本に基づいてカワバタモロコと命名した。なお、この和名の"カワバタ"の由来は標本の提供者の川端重五郎博士に因むものである (田中, 1916a)。さらに、田中博士は同年に第二の産地として三重県津市の池で、陸水生物学者の川村多實二博士が本種を確認したことを報告している (田中, 1916b)。

本種は三重県内では伊賀盆地や伊勢平野の丘陵地のため池にかつては広く分布していた。既知の生息する市町は、旧阿山町、旧上野市、伊賀市、いなべ市、菰野町、亀山市、津市、旧久居市、松阪市、度会町である (田中, 1916b; 橋本, 1951; 岡田ほか, 1955; 秋田, 1994; 森, 1995; 森, 2004; 読売新聞, 2010; 鹿

野ほか, 2010 ; Watanabe and Mori, 2008; Watanabe et al., 2014 ; 三重県, 2015 ; 北村, 未発表). さらに, 伊勢平野の個体群は, 水系ごとに, 固有の体形や遺伝様式を持っていることが知られている (赤田・淀, 2006 ; Watanabe and Mori, 2008).

現在, 本種の生息が確認されている場所は10ヶ所ほどのため池に限定されており, いずれも絶滅の危険性が極めて高い. そのため, 本種は2004年には三重県希少野生動植物種に指定され, 県条例により捕獲が禁止されている (三重県, 2007). さらに, 三重県レッドデータブックでは絶滅危惧IA類にランクされている. 本種の絶滅の危険性が高い理由として, ため池の埋め立てや管理放棄による生息池自体の消失, 生息池への肉食性国外外来魚類の侵入があげられる (森, 2004 ; 水野, 2015). また三重県ではマニア・業者等による採集を防ぐため, 生息地の詳細な位置情報は非公開としている (三重県, 2015).

県内のいくつかの生息池では本種の保護に向けた県民と行政が連携した保全活動が行われている. 中勢地方のあるため池では, 2005年11月に地元住民が主体となって研究者と行政の協力によるため池の環境改善と農業基盤整備ならびに観察会を行った. すなわち, 本種を一時保護として域外保存とし, 池の排水ならびに外来植物と池の床にたまった軟泥の除去, および池干しによって池の底の泥を酸化させた. さらに, 農業利水の基盤整備として池から水田への出水口である樋の補修を行った. 補修後, 水を貯め, 翌年の春先に保護個体を再導入した. さらに, 生息池の生態系保全の啓発のため, 自治会主催で地元自治会の子どもを対象とした自然観察会も夏休みに行っている (北村・鈴木, 未発表).

近年, 北勢地方の菰野町 (読売新聞, 2010) や亀山市ではカワバタモロコの実生池の発見が報道され, 亀山市では精力的に池干しを実施して生息する池を増やすなど, 県内各地において本種の保全活動の機運が高まりつつある (三重県, 2015). この様な県民の地道な活動が実を結び, ため池には本種を始めとする様々な生き物が見られる自然豊かな里山が再現されるだけでなく, かつては日常的な家庭の光景であった“キンモロコ”が再び食卓に蘇ることを願ってやまない.

引用文献

- 赤田仁典・淀 太我. 2006. カワバタモロコ *Hemigrammocypris rasborella* における外部形態の水域間変異. 魚類学雑誌, 53: 175-179.
- 秋田勝巳. 1994. 三重県におけるカワバタモロコの記録. 三重自然誌, 1: 46.
- 橋本太郎. 1951. 三重県淡水魚概説. 三重生物, 2: 8-12.
- 鹿野雄一・北村淳一・河村功一. 2010. 絶滅危惧種ウシモツゴの繁殖生態と保全策, および近縁種モツゴとの比較. 魚類学雑誌, 57: 43-50.
- 前畑政善. 2001. カワバタモロコ. 川那辺浩哉・水野信彦 (編), pp. 256-257. 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 森 誠一. 1995. 津市丘陵地のため池におけるカワバタモロコ. 三重自然誌, 2: 59-62.
- 森 誠一. 2004. 三重県上野市におけるため池の魚類相. 国立環境研究所研究報告, 183: 5-11.
- 水野聡子. 2005. カワバタモロコ. 三重県環境森林部自然環境室 (編), p. 147. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 財団法人三重県環境保全事業団, 津市.
- 三重県. 2007. カワバタモロコ保護指針. 三重の自然学校. 三重県ホームページ: <http://www.pref.mie.lg.jp/MIDORI/HP/shizen/ikimono/shitei/species/005kawabata/index.htm> (参照日2016年2月14日)
- 三重県. 2015. 三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 三重県農林水産部みどり共生推進課. 津市.
- 中村守純. 1969. 日本のコイ科魚類 (資源科学シリーズ4). 資源科学研究所, 東京. 455 pp.
- 岡田彌一郎・伊藤 隆・窪田三郎. 1955. 神宮宮城内五十鈴川流域の淡水生物相. 神宮農業館報告B (生物), 1: 1-18.
- Onikura, N., J. Nakajima, H. Kouno, Y. Sugimoto and J. Kaneto. 2009. Habitat use of the golden venus chub (*Hemigrammocypris rasborella*) at different growth stages in irrigation channels. Zool. Sci., 26: 375-381.
- 大仲知樹・加藤一宏・森 誠一. 2001. ウシモツゴの体長分布月別変化と移植の可能性. 陸水学報, 16: 27-31.
- 田中茂穂. 1916a. 日本産魚類の二新種. 動物学雑誌,

28: 102-103.

田中茂穂. 1916b. カワバタモロコの第二産地. 動物学雑誌, 28: 273.

田中哲夫・山科ゆみ子・三浦康弘. 2001. ため池のカワバタモロコ個体群の変動. 関西自然保護機構会誌, 23: 35-43.

読売新聞. 2010. 2010年3月25日.

Watanabe K., and S. Mori. 2008. Comparison of genetic population structure between two cyprinids, *Hemigrammocyppris rasborella* and *Pseudorasbora pumila* subsp., in the Ise Bay basin, central Honshu, Japan. Ichthyological Research, 55: 309-320.

Watanabe K., S. Mori, T. Tanaka, N. Kanagawa, T. Itai, J. Kitamura, N. Suzuki, K. Tominaga, R. Kakioka, R. Tabata, T. Abe, Y. Tashiro, Y. Hashimoto, J. Nakajima, and N. Onikura. 2014. Genetic population structure of *Hemigrammocyppris rasborella* (Cyprinidae) inferred from mtDNA sequences. Ichthyological Research, 61: 352-360.

